

令和8年度 丸内中学校校内研究

1 研究主題

共に認め合い、主体的に学び続ける生徒の育成

～学びをつなぐ授業づくりを目指して～

2 経緯と主題設定の理由

昨年度の学校研究では、共に学び合い深め合いながら、主体的に表現する生徒の育成に向けて、教職員をAチーム（見取りと適切な指導・支援）、Bチーム（学習用端末を効果的に用いた授業づくり）の2つに分けて、年間を通して授業研究を推進していく体制を取り入れた。各チームではそれぞれ年間を通してのねらいを設定した後、それらを達成するために、授業の在り方を指導案検討会で協議し、研究授業を行い、ねらい達成に向けての取組に焦点を絞った授業整理会を実施した。その後の教科部会では、それぞれの教職員が自分の授業内で生かせる事を見出そうとすることで、従来よりも、学校研究の取組を自分事として捉えながら研究を推進していく姿が見られた。また、授業の中で、生徒間の学力差や学習意欲の差を縮めていくために、生徒同士をつなぐコーディネートの仕方の工夫に焦点を当てたり、学習用端末の他者参照や共同編集の機能を活用したりすることも大切にしてきた。他者参照や、共同編集などの機能を積極的に用いた授業を構成することはできたものの、実際の授業では、学習が得意な生徒は他者参照をすることが少なく、協働的な学びとは言えない状況が多く見られた。学習を苦手としている生徒は、内容を理解することが困難で、学ぶ意義を見出せないような状況に陥ってしまい、これらの生徒間で、学力、学習意欲の両面ともに二極化の傾向が見られた。また、教員として、基礎・基本の定着（スキルタイム）、単元に見通しを持った指導（単元見通し学習）、振り返りの強化、学習用端末の活用など様々な手法を取り入れ、授業改善に努めてきた。しかし、指導方法・手段が先行し、生徒同士が自ら学び合い、主体的に表現できる生徒には至らなかったのではないかという課題があった。

その課題を解決するために、本年度の研究について考える校内研修を昨年度末に行った。主体的に学び続ける生徒の育成には、学ぶこと、交流することの必要性を生徒自身が感じ、生徒自ら主体的に活動することが重要である。そのためには、生徒の学びを『つなぐ』授業づくりが必要であると結論づけ研究主題とした。今までの学びと授業の学びをつなぐために、導入と課題設定の工夫をする。生徒と生徒をつなぐために、協働的な学びを目指す。生徒と教員をつなぐために、発問・見取りの工夫をする。これらを研究テーマとして1年間取り組んでいく。

3 取組内容

今年度はグループではなく、各個人が責任を持ち、研究主題に迫ることを目的に、1人1実践で行う。研究主題に迫る自分の研究テーマを設け、下記の3グループに分かれて、自分の研究の進捗具合をお互いに助言しあえる環境を作る。各グループでそれぞれの指導案検討、授業交流、授業整理会などを行い、助言をもらいながら、研究テーマ達成のために各個人が取り組む。

**学びと学ぶを
つなぐ**

導入と課題設定の工夫

- ①興味・関心を強化する導入の工夫
- ②興味が沸く課題設定とまとめとの整合性

**生徒と生徒を
つなぐ**

協働的な学び

- ①効果的な学び合いの工夫
- ②ファシリテート能力の向上

**生徒と教員を
つなぐ**

発問・見取りの工夫

- ①教科の見方・考え方の共有
- ②発話量を削減し、生徒の活動の確保

令和8年度 小松市立丸内中学校 学校研究構想図

教育目標

心身ともに健康で、自主自立の精神に富み、人間性豊かな丸中生徒の育成

研究主題

共に認め合い、主体的に学び続ける生徒の育成
～ 学びをつなぐ授業づくりを目指して～

学びと学ぶをつなぐ

導入と課題設定の工夫

- ① 興味・関心を強化する導入の工夫
- ② 興味が沸く課題設定とまとめとの整合性

生徒と生徒をつなぐ

協働的な学び

- ① 効果的な学び合いの工夫
- ② ファシリテート能力の向上

生徒と教員をつなぐ

発問・見取りの工夫

- ① 教科の見方・考え方の共有
- ② 発話量を削減し、生徒の活動の確保
- ③ 見取りの手法の工夫

共通実践

個別に研究テーマを設定し、1人1実践

- ・上記の3つのグループに所属し、自分の研究テーマについて相談や協議をする。
- ・授業をお互いに参観（互見週間・研究授業）し、授業整理会で自分の授業を改善する。

学びの基盤づくり

今までの丸内中の積み上げ

主体的な家庭学習の実施

- ① 自分の学びを振り返り、自分に必要な学習を自分で選択し、自学ノートでの学習を促す。
- ② 教科の家庭学習の目安を定期的に提示し、生徒が自主的に学習できるように促す。

スキルタイムの活用

- ① 授業内の短時間で、基礎・基本を徹底することで、学力の定着を目指す。
- ② 家庭学習に委ねるのではなく、授業の中で基礎・基本を身に付ける。

教科部会の活用・学習用端末の利用

- ① 教科部会を適宜行い、情報共有をすることにより、授業改善を行う。
- ② 自分の興味・関心や力に応じて、学習用端末を効果的に活用する。

単元見直し学習・振り返りの徹底

- ① 単元等のまとまりを見通した指導を計画し、次時につなげる。
- ② 学習したことを用いて振り返りを行うことで、学びの自覚化を促す。

生徒の授業の基盤

授業の臨み方4ヶ条

- ① ベル礼の徹底
心も体も落ち着いた状態で授業に臨む。
- ② 挨拶を大事に
先生、級友、自分を尊重し、礼儀正しく挨拶。
- ③ 正しい学習用端末の利用
自分の思考を深める1つのツール。
- ④ 授業は皆の時間
メリハリを大切にする。

授業の学び方3ヶ条

- ① 聴く態度
話している人の方を向き、相手のことを考え、色々な意見を受け入れる。
- ② 伝え方
理由・根拠をもとに、相手に理解してもらえるように、聴いてくれる人の方を向き話す。
- ③ 考える姿勢
自分なりの考えをもつ。